

漢字

- 1 子供の誕生を喜ぶ。
- 2 なかなか寝つけない。
- 3 体の疲れがとれない。
- 4 力強く舞い上がる。
- 5 すばらしい映画を見る。
- 6 二十歳で結婚する。
- 7 撮影に出かける。
- 8 新鮮な風景。
- 9 花の群生。
- 10 苛酷な環境。
- 11 風に揺れる。
- 12 我慢げに話す。
- 13 不思議そうな視線。
- 14 大地に栄養を与える。
- 15 走って戻ってきた。
- 16 風の感触。
- 17 風の音に耳を澄ます。
- 1 吹雪(ふぶき)の北極圏。
- 2 思いを巡(めぐ)らせる。
- 3 曇(くも)りガラスを取り除く。
- 4 肌が透(す)けて見える。
- 5 すっかり魅(み)せられる。
- 6 心に安らぎを与(あた)える。
- 7 水で覆(おお)われる。
- 8 淡(あわ)いブルーの花びら。
- 9 焦(あせ)る気持ち。
- 10 鳥の抱卵(ほうらん)。
- 11 遠くへと導(みちび)く。
- 12 花の中で戯(たわむ)れる。
- 13 狩りを終(お)えた母ギツネ。
- 14 獲物(えもの)をくわえて走る。
- 15 慌(あわ)ただしい毎日。

要旨

アラスカに住むことを決めてから、自然や人々との「つながり」が深く感じられるようになった。大きな自然ばかりに目が向いていたのが、身がかめてのぞく「花」の世界を新鮮に感じるようになったのだ。とりわけ極北の地で、限られた持ち時間の中で一生懸命咲くワスレナグサの姿に、「今」を生きることの大切さを教えられた。意味を持つのは「結果」ではなく過ぎた時間であり、その時間の存在を感じ取る「心」をまだ見ぬ自分の子供に伝えたいと思う。

内容の理解

正解

- 1 アラスカで暮らしたいという気持ち。(十七字)
- 2 自分と親しいつながりを持って見えているということ。
- 3 アラスカの花の世界を見つめ直し、身がかめて風景を見るようになった。
- 4 イ
- 5 ウ
- 6 番組を撮って帰らなければならないという焦り。
- 7 私たちが生きることができるのは、ただ今しかないのだから、この北極海のほとりの自然をしっかりと見ようということ。
- 8 ウ

- 16 人間の日々の営(いとな)み。
- 17 気配(けはい)を感じる。

語句

- 1 1 とりわけ(ことに)。なかでも。
- 2 2 線を画す(はつきりと区別する)。
- 3 3 ギクシャク(物事が滑らかにいかないさま)。
- 4 4 かけがえのない(取りかえることのできない)。
- 1 1 うれしい知らせに力が湧いた。
- 2 2 この土地に根を下ろす。

要点の整理

第一段落	第二段落	第三段落	第四段落	第五段落
初め、 一九〇・8	一九〇・9、 一九二・12	一九二・13、 一九四・2	一九四・3、 一九六・11	一九六・12、 終わり
吹雪の北極圏で、初めての子供の「誕生」を知った。身体 の奥底からふつふつと「力」が湧いてくるような気がして、 なかなか寝つくことができなかった。	アラスカに住むことを決めてから、それまでの旅とは違った 「風景」が見えてきた。自然も人々の暮らしも自分と親し い「つながり」を持ち始めている。妻がアラスカに来てか らは、アラスカの「花の世界」を見つめ直し、小さな自然に も目が向くようになった。	一瞬の夏、「限られた」持ち時間の中で一生懸命開花しよ うとする極北の花々はどれも美しいが、アリューシャン列島 で見た「ワスレナグサ」の姿は忘れられない。	テレビ番組の撮影を通して、「結果」が最初の思わくどお りにならなくても、そこで過ごした「時間」は確実に存在し、 意味を持つのは「結果」ではなく、過ごしてしまった、かけ がえのないその「時間」であると思った。それをいつも 「心」のどこかで感じていたい。	いつまでも眠ることができない中で、「風の音」に耳を澄 ましながら、生まれたばかりの、まだ見たことのない「生命」 の気配を、夜の闇の中に捜していた。

- 3 自然にばかり目が向く。
- 1 同じ例が少なからず見つかった。
- 2 あたかも風に吹かれる木の葉のようだった。
- 補足説明 2 「あたかも」は多くの場合、下に「のようだ」「のごとし」などを伴い、状態などをよく似ている物事にたとえて形容する語。

要旨
筆者の感動が何に向けられているかに注目する。
筆者の視点がどこにあるかを考える。

要旨

「わがわが」「北極海沿岸」まで、自然番組を作りに来たのである。それが、悪条件が重なり、撮影ははかどらないとなれば、焦るのは当然のことだろう。「誰も」とは、テレビ局のスタッフの誰もである。指示内容はわかりやすい。

話した内容は、一九四ページ12行目から一九五ページ6行目までである。その中で、筆者がディレクターに伝えたかったことを、ポイントを絞ってまとめることが大事である。①こんな北極海のほとりまではなかなか来れないのだから、ここの自然をしっかりと見ておこう、②私たちが生きることができるのは、ただ今しかない、この二点について訴えたかったのである。北極海沿岸を知り尽くした筆者の説得力のある言葉である。

直前の一文、「そんなことを、いつの日か、自分の子供に伝えてゆけるだろうか。」の「そんなこと」のさす内容を考えればよい。筆者は、子供の誕生を実感しながら、このアラスカの自然と、その中で感じたさまざまなことを、「いつの日か、自分の子供に伝えてゆけるだろうか」と思いを巡らせ、「いつまでも眠ることができない」のだ。最終段落が、第一段落と対応している点も押さえておく。